

(2面から続く)

めに閲覧をしたことにはありませぬし、何人かの議員に聞いてみても閲覧したことはないということなので、実体を把握するために本市における政治目的の閲覧実績を提示されるよう求めます。その上で、市長は閲覧したことがあるかどうか伺います。

**市長** 私自身は閲覧したことは一切ありません。おそらく私の政治団体もないのではないかなとは考えています。

**選挙管理委員会事務局長**

政治目的という関係から、申請者が政党その他の政治団体または候補者である閲覧件数で述べますと、平成十五年度二件、十六年度九件、十七年度二件です。

### 救命率 向上策について問う

池田議員(市政クラブ)

救命率向上について突然死の原因の多くは、心臓疾患によると言われており、心室細動で心臓が規則正しく働かず死に至ってしまうとのことです。これは、心臓が心室細動というけいれんした状態になることで、最も適切な対処法は除細動という電気ショックをすることであり、その場で除細動を実施すれば、高い確率で命を救うことができますと言われています。平成十七年七月の法改正に伴い、普通救命講習受講者は除細動を行うことができるようになったため、本市でも自動体外

式除細動器(AED)を設置されましたが、救命講習の実施状況とAEDの設置状況、市内での実績を伺います。

また、地域で行われるさまざまな行事に、貸し出せるAEDを用意してはと思いますか、いかがでしょうか。

さらに、予備救急車を使った第四救急では、人員確保の方法と予備救急車の整備については他の三台と同様なのか伺います。

**消防長** AED普通救命講習は、平成十七年実績で職員、一般市民、各種団体及び事業所等を対象に二十四回、四百九十二名が受講されてお

### 福祉軽度者の不利益対応は

伊澤議員(市政クラブ)

福祉問題について本年の四月の制度改正で、障害軽度者への福祉用具の貸与が制限されるようになり、改正前から借りている方も猶予期間が切れるこの十月から原則利用できなくなり、福祉用具に頼ることが身体機能を低下させる原因になる。

あるいは、必要性の低い人まで用具を借りている。こういった指摘が制限につながったとされています。しかし、障害軽度者でも半数以上は、寝床からの起き上がりや手すりや介助が必要とされています。

国は利用を制限することで介護の総支出を減額したいのかもしれませんが、福祉用具がなければ介助の人手は確実にかかり、場合によっては要介護度が重くなることも懸念され、総支出は逆に増加してし

まうのではないのでしょうか。当局は福祉用具利用実態の調査をされたのかどうか。また、福祉用具の貸し出し制限で生じる障害軽度者への不利益について、どう把握され対応されるのかお示し下さい。

**市長** 障害軽度者に対する福祉用具の利用は、要介護認定の認定調査における基礎調査の結果を活用し、主治医の意見書を踏まえつつ指定介護予防支援事業者、またはケアマネジャーが必要と判断した場合、障害軽度者に対する福祉用具の利用は、一部の福祉用具を除いて一定の条件に該当するものなら給付の対象となります。今後とも制度改正に伴う福祉用具貸与の推移を見守っていき、来年度実施予定の介護保険事業計画策定のアンケート調査の中で利用状況の把握に努めます。

ります。設置状況については市内公共施設に九カ所、東分署、北分署及び本署の消防車等に四台あり、合計十三器配備しておりますが実績はございません。貸し出しについては、車両等に積載してあります。

また、地域で行われるさまざまな行事に、貸し出せるAEDを用意してはと思いますか、いかがでしょうか。

さらに、予備救急車を使った第四救急では、人員確保の方法と予備救急車の整備については他の三台と同様なのか伺います。

**消防長** AED普通救命講習は、平成十七年実績で職員、一般市民、各種団体及び事業所等を対象に二十四回、四百九十二名が受講されてお

ります。設置状況については市内公共施設に九カ所、東分署、北分署及び本署の消防車等に四台あり、合計十三器配備しておりますが実績はございません。貸し出しについては、車両等に積載してあります。

また、地域で行われるさまざまな行事に、貸し出せるAEDを用意してはと思いますか、いかがでしょうか。

さらに、予備救急車を使った第四救急では、人員確保の方法と予備救急車の整備については他の三台と同様なのか伺います。

### 山本議員(政和会)

在日外国人の日本語指導について

本市の在日外国人登録者数は年々増加し、この一年間で約六%増加しております。平成十七年には二千七百七十八人と本市人口の約二%を占めております。国際化の流れの中にあつて、外国人との共生社会の構築は重要な課題であり、人口減少社会にあつて外

国語に対する取り組みを真剣に考えていく必要があります。

在日外国人にとって、言葉の問題は大変重要であり、日本語を習得していないために地域にも馴染めず就職もままならない。さらに、コミュニケーションがとれないために孤立しがちであります。

離婚した場合などは、生活困窮に陥り、結局生活保護を受給するようになってしまっています。本市では、本年五月現在で二十二世帯、三十六名が生活保護を受給しております。したがって、日本語指導は急務であり、本市の在日外国人

が必要と考えます。しかしながら、その計画施行は公共性を持つ事業であり法令に基づき遂行されるものです。社会情勢の急激な変化によって街は変化しつつあります。座間駅西口における今後の開発計画について伺います。

また、JR入谷駅は、利用者が年々増加しています。駅利用者の安全と利便性を考え

### 急げ！中学校給食を

吉田議員(自民党明政会)

市長の政治姿勢について私は、中学校に給食を取り入れることを市長に提言いたしました。市長は、給食のこと

は教育委員会の問題と答弁を振られるだろうと思いますが、振らないでください。私が議員になって三十年、議会より

への日本語指導については、ボランティアの方が善意で活躍しており、公民館等三カ所で約三十名の方を対象に日本語教室を設けて成果を挙げております。しかし、これらの

開催費用は全て寄付金や自前で賄われています。このような事業は市の責任で行い、ボランティアに対して積極的に支援策を講ずるべきだと思います。ご所見をお伺いします。

**市長** 市民の方が善意で行っていることについては、本

当にありがたいと思います。支援策については検討させていただきますが、他の団体等との調整や、さらには、外国人の相談窓口、通訳ボランティアの派遣事業等総合的に検討してまいります。

この問題が出るたびに教育長は一貫して、母親の手作り弁当が一番子供のためになる。俗に「愛情弁当」と言われてきました。先般、本市の中学校には給食がないから」との理由で中学入学を機に海老名市に転出されたとの話を聞き、平成十七年六月、食育基本法が制定され七月から実施されました。朝食をとら

ないといろいろな影響がある。食へることによってイライラが消え、落ち着きが出て集中力がアップする。多動性障害や学級崩壊、切れる、子の原因は、なんと「食」にあった。食へるだけでIQ、EQが高まるとも言われています。朝食を抜いて昼食はパンと牛乳、戦中戦後ではありません。愛情弁当という言葉は、もう日本では通用いたしません。

中学校給食実施の良否を父兄にお聞きしてはいかがでしょうか。

か。西中学校では昼食を業者注文しており、その統計を見てみすと六月の一月月間で七百九十食を注文しています。登校日や生徒数から比較すれば明らかに給食が必要で、中学校給食の実施をぜひ考えていただきたい。

**市長** 今現在、教育委員会でも、センター方式を含めて給食のあり方検討委員会において検討されていますから、私としてはゆだねたいというのが率直なところですが、

### 市独自の低所得者対策を

柏木議員(日本共産党)

障害者自立支援法についてこの法律により、四月から障害者の一割応益負担が導入され、自立を阻み、生存権の侵害ともいえる深刻な問題を引き起こしています。利用負担額は、支援費制度では障害者本人の所得で決められていたことが、四月からは世帯全員の所得によって決められるようになりました。

市独自の低所得者対策として、低所得者の市民税非課税世帯で本人収入八十万円以下の者、及び低所得者の市

民税非課税世帯で本人収入八十万円以上の者の負担額を無料とし、一般世帯(市民税課税世帯)は上限を低所得者のランクをあて、一万五千元にするこの所見を求めます。

次に、十月から市町村の事業である障害程度区分の認定と、これに基づく支給決定、地域生活支援事業が始まりました。地域生活支援事業については、市が独自に利用料を定めることができます。障害者が今まで無料で使えたサビ

の待合いベンチ」です。特に駅周辺は踏切の関係で交通渋滞になり、路線バスも時刻どおりに走れず小田急座間駅前バス停では、「待合いベンチ」がなく高齢者の方が疲れきりいつも行列をつくりバスを待っています。

本市は、狭隘な道路事情があります。高齢者への思いやりと利便性を考え、歩道部分等に余裕がある場所は当然

### 思いやりのあるバス停を！

稲垣議員(公明党)

路線バス停の改良について路線バスは、重要な日常の足となり、路線バスなくしては通勤・通学・買い物や病院通いもままならず、一日たりとも欠かすことはできません。路線バスが果たす役割は高齢者の生活や本市の今後の発展にとって大変重要であります。これからの高齢化社会の中でバス停に一番必要なのは皆さんが休憩できる「バス停

の待合いベンチ」です。特に駅周辺は踏切の関係で交通渋滞になり、路線バスも時刻どおりに走れず小田急座間駅前バス停では、「待合いベンチ」がなく高齢者の方が疲れきりいつも行列をつくりバスを待っています。

本市は、狭隘な道路事情があります。高齢者への思いやりと利便性を考え、歩道部分等に余裕がある場所は当然

(4面へ続く)